

第3章 再生可能エネルギーを活用した地域づくり

本県は、豊富な温泉や森林資源、広大な海域、長い海岸線などの自然条件をはじめ、畜産業などの農林水産業が盛んであり、多様で豊かな再生可能エネルギー資源が存在しています。現在、再生可能エネルギーの導入が進んでおり、今後も、この本県の恵まれた資源を生かした更なる導入が期待されます。

一方で、再生可能エネルギーの導入状況は、自然条件によって出力が大きく変動する太陽光及び風力の割合が高く、安定的な発電が可能な電源の導入が望まれているほか、不安定な発電の調整力の確保を図るため、蓄電池の性能向上や低コスト化などの技術革新が必要となっています。

また、再生可能エネルギーの導入拡大に当たっては、発電コストの低減や系統制約の克服、地域と共生可能な適地の確保及び適正な事業実施などの取組が必要となっています。

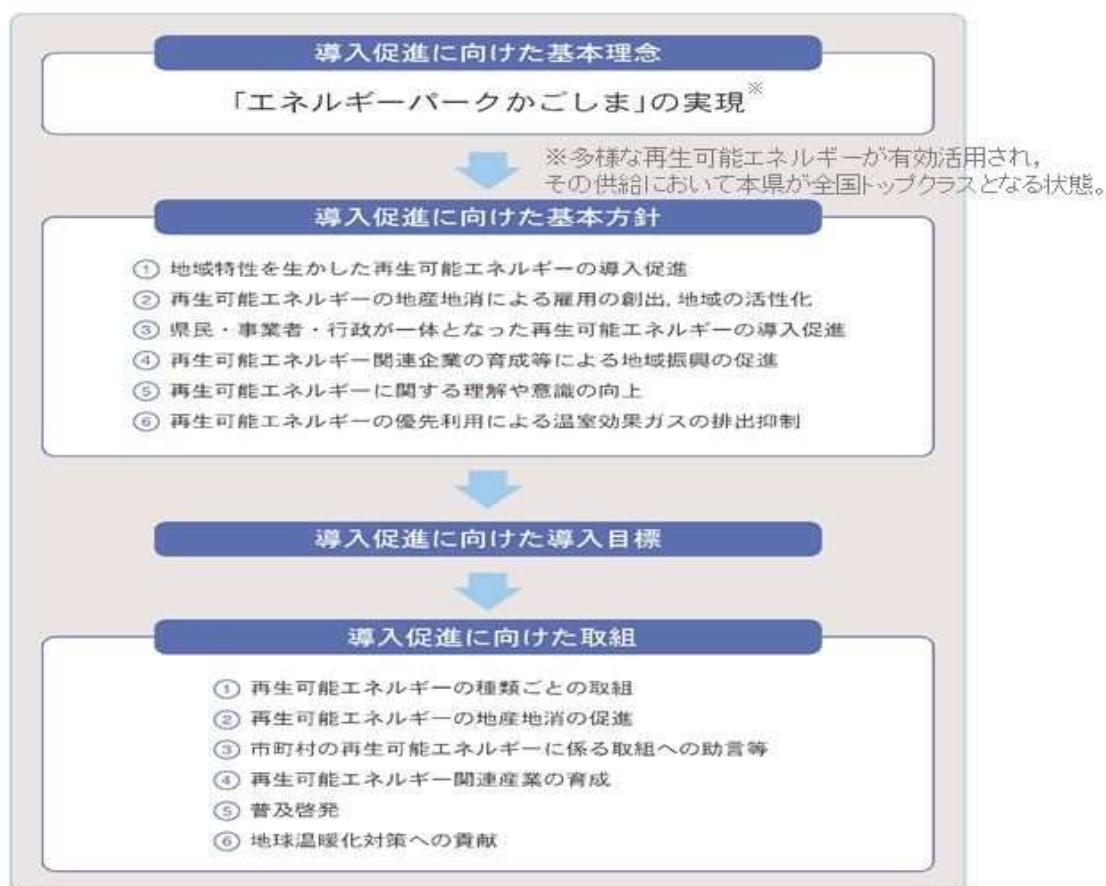
第1節 地域特性を生かした再生可能エネルギーの導入促進

1 再生可能エネルギー導入ビジョン2018（再生可能エネルギーの導入促進）

平成30年3月には、「再生可能エネルギー導入ビジョン2018」を策定し、本県の地域特性を生かした再生可能エネルギーの導入促進を図っているところです。（図3-1）（平成14年3月～平成26年3月は「県新エネルギー導入ビジョン」、平成26年4月～平成30年2月は「県再生可能エネルギー導入ビジョン」において導入促進）

図3-1 再生可能エネルギー導入ビジョン2018

再生可能エネルギー導入促進の体系



導入目標(短期目標)

区分	導入実績		導入目標(短期目標)		
	2016年度末現在	2022年度末現在	2016年度比		
発電 (kW)	太陽光	1,348,628	2,970,000	2.2 倍	
	風力	263,820	371,000	1.4 倍	
	水力		261,719	277,000	1.1 倍
		うち, 小水力	10,609	25,890	2.4 倍
	地熱		61,680	71,000	1.2 倍
		うち, ハイナリー方式	1,580	10,900	6.9 倍
	バイオマス	90,000	228,000	2.5 倍	
海洋エネルギー				導入事例を数例作る	
熱利用 (kL)	太陽熱	43,697	44,000	1.0 倍	
	バイオマス熱	107,956	168,000	1.6 倍	
	温泉熱				導入事例を増やす
	地中熱	189	300	1.6 倍	
燃料製造 (kL)	バイオマス燃料製造	179	500	2.8 倍	

(1) 本県の取組状況

平成30年3月に策定した「再生可能エネルギー導入ビジョン2018」に基づき、再生可能エネルギー設備の導入推進のための条件整備を行うとともに、再生可能エネルギーに関するイベントや導入のためのセミナーの開催等、県民や事業者等に対し、様々な媒体や機会を通じて、普及啓発活動を推進しています。

(2) 本県における再生可能エネルギー導入状況

本県は、森林、畜産、温泉や広大な海域等、多様で豊かな資源に恵まれており、太陽光発電や風力発電のほか、地熱発電やバイオマス発電など、多様な再生可能エネルギーの導入が進んでいます。(表3-1)

また、黒潮を利用した海流発電など、新たな発電方法の開発も進められています。

表3-1 本県の主な再生可能エネルギー導入状況及び県内の設置事例

区分	導入状況 (R3年度末時点)	導入目標 (2022(R4)年度)	設置事例 (設置場所、規模)
太陽光発電	2,307,721kW	2,970,000kW	民間太陽光発電施設 (鹿児島市, 70,000kW)
風力発電	270,998kW	371,000kW	民間風力発電施設 (長島町, 2,400kW×21基) 民間風力発電施設 (薩摩川内市, 2,300kW×12基)
小水力発電	13,416kW	25,890kW	民間小水力発電施設 (肝付町, 995kW) 県小水力発電施設 (南九州市, 375kW)
地熱発電 (バイナリー)	6,820kW	10,900kW	民間地熱バイナリー発電施設 (指宿市, 1,580kW)
バイオマス発電	143,275kW	228,000kW	民間バイオマス発電施設 (鹿児島市, 49,000kW)
バイオマス熱利用 (原油換算)	122,470kL	168,000kL	市木質バイオマス熱利用施設 (鹿屋市, 175kL)
バイオマス燃料製造	94kL	500kL	民間バイオマス燃料製造施設 (鹿児島市, 24kL)

第2節 再生可能エネルギーを活用した水素製造に向けた基盤づくり

持続可能な社会の実現に向けた地球温暖化対策が世界的な課題となっている中、水素は、利便性やエネルギー効率が高く、また、利用段階での温室効果ガスの排出がないなど、多くの優れた特徴を有しており、将来の二次エネルギーにおいて、電気、熱に加え、中心的な役割を担うことが期待されています。さらに、将来の水素社会の実現に当たっては、太陽光などの再生可能エネルギーで発電した電力を使って製造されるカーボンフリーな再生可能エネルギー由来水素の活用が期待されているところです。

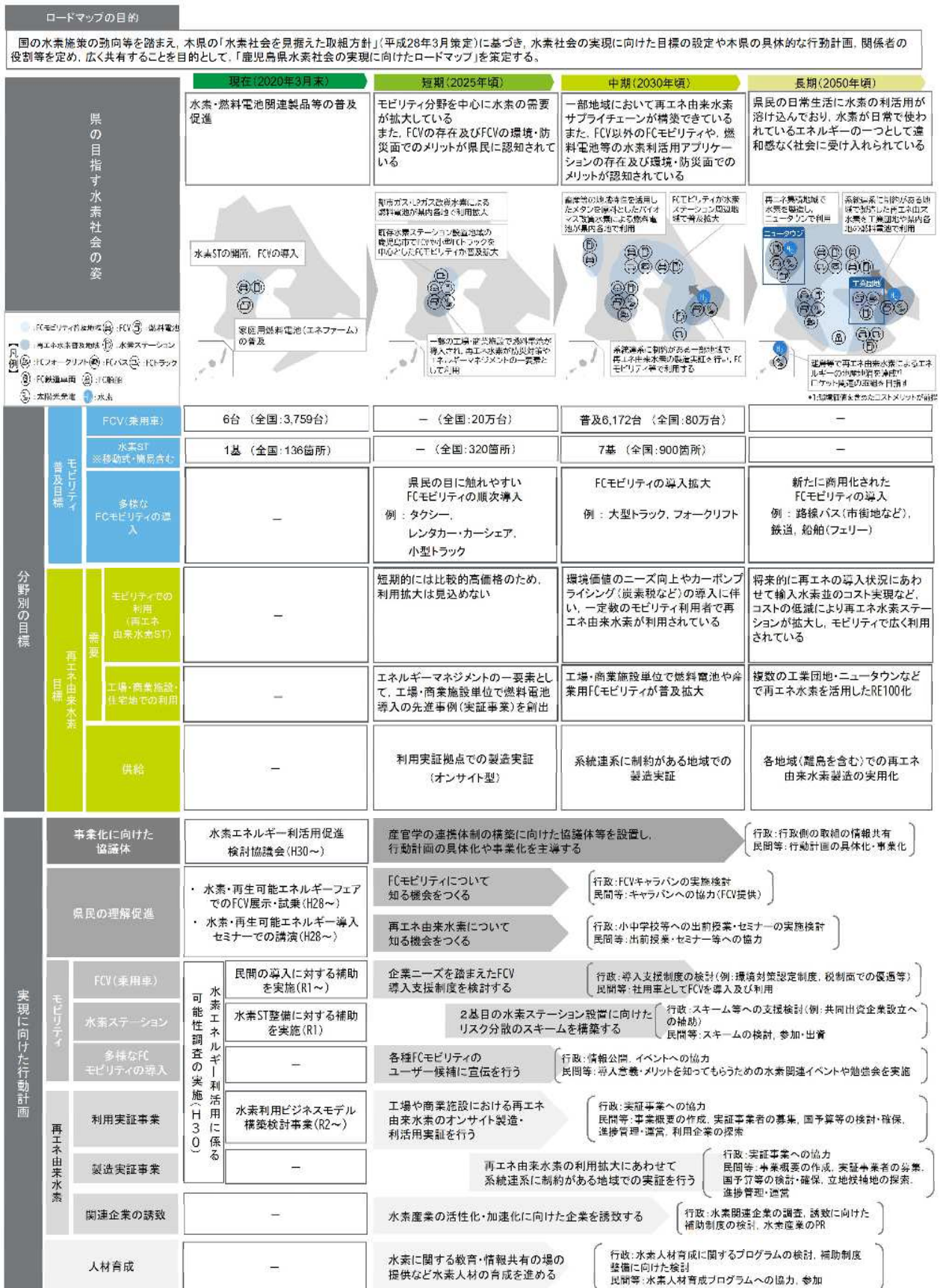
本県においては、平成28年3月に「水素社会を見据えた取組方針」を策定し、水素エネルギーの導入意義や本県の現状、課題等を整理し、今後の取組方針をまとめ、水素に対する県民の理解促進等の取組が行われてきました。

令和2年3月には、国の水素施策の動向等を踏まえ、「水素社会を見据えた取組方針」に基づいて、水素社会の実現に向けた目標の設定や本県の具体的な行動計画、関係者の役割等を定め、広く共有することを目的として、「鹿児島県水素社会の実現に向けたロードマップ」を策定しました。(図3-2)

今後もカーボンニュートラルの実現に向け、水素を重要なエネルギー源と位置づけ、水素の社会実装を進めていくこととしています。

図3-2 鹿児島県水素社会の実現に向けたロードマップ概要

鹿児島県水素社会の実現に向けたロードマップ(2020年3月策定)



1 実施体制

県内への水素エネルギーの利用を促進するため、平成30年度から産学官等で構成する協議会を開催し、水素エネルギー利活用可能性調査の調査内容や調査項目等に対する検討・助言を行っています。

2 水素ステーションの整備

水素ステーションはF C V（燃料電池自動車）に燃料である水素を供給する場所です。現在、鹿児島県内の水素ステーションは鹿児島市新栄町に1か所あります。

3 燃料電池自動車導入支援（令和元年度～）

令和元年度より、県内においてF C V（燃料電池自動車）を購入する民間事業者等に対し、購入に必要な経費の一部を助成しています。令和元年度には1件、令和2年度には3件、令和3年度は4件の助成を行いました。

4 鹿児島県のF C V（燃料電池自動車）保有台数

鹿児島県におけるF C V（燃料電池自動車）保有台数は表3-2のとおりです。令和4年3月末現在の九州各県の保有台数は表3-3のとおりです。

表3-2 F C V（燃料電池自動車）保有台数の推移（鹿児島県）

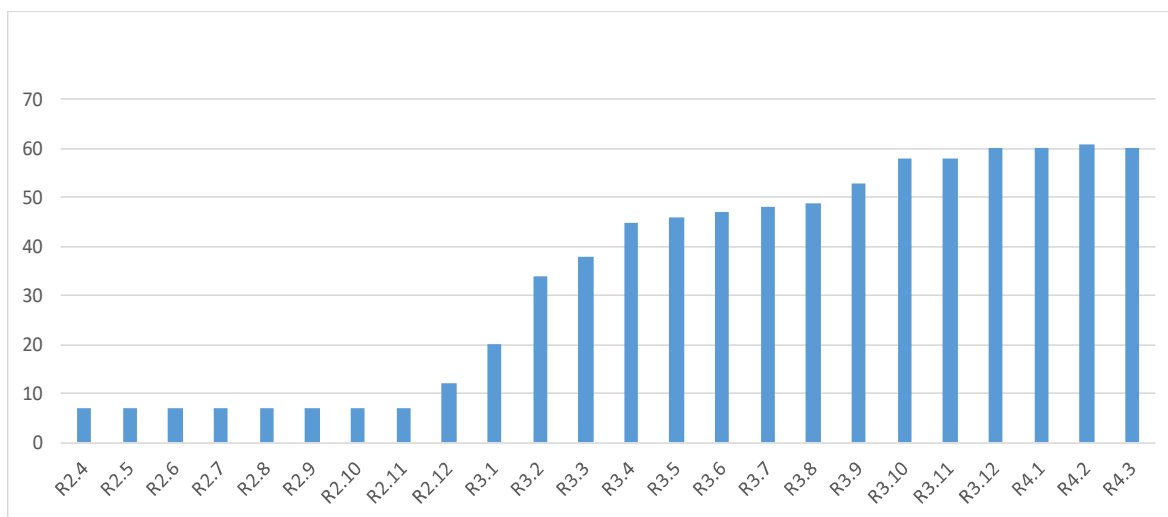


表3-3 九州運輸局燃料別等自動車保有台数（令和4年3月末現在）

	燃料電池	ハイブリッド	電気
福岡県	232	486,218	7,153
佐賀県	42	84,138	1,510
長崎県	0	101,248	1,389
熊本県	26	177,061	2,301
大分県	23	113,404	2,198
宮崎県	1	106,187	1,356
鹿児島県	60	150,432	1,911
九州	384	1,218,688	17,818
全国	7,114	10,704,010	140,490

※軽自動車は除く

5 普及啓発活動

(1) F C Vキャラバンの開催

令和2年度よりF C V（燃料電池自動車）の展示や水素ミニ講座を行うキャラバンを開催し、水素エネルギーやF C V（燃料電池自動車）への理解促進や導入拡大を図っています。

(2) 燃料電池自動車公用車導入事業

令和3年12月に公用車としてF C V（燃料電池自動車）を1台導入し、県庁内で展示・パネルの設置を行うなど、県民や事業者等へ水素エネルギーに対する理解促進・普及啓発を図っています。